

# 会報ひまわり

臨時号

## 目次

- 1: お知らせ〈総合療育並行型ペアレントトレーニング開設のお知らせ〉
- 2: インタビュー〈当会(NPO法人ひまわりの会)代表〉

お知らせ〈総合療育並行型ペアレントトレーニング開設のお知らせ〉

この度は、ひまわりの会会報誌をご覧下さいまして誠にありがとうございます。

今回は、当会「NPO法人ひまわりの会」と昨年設立された「NPO法人すくすく」による共同事業、「総合療育並行型ペアレントトレーニング」につきましてご紹介をさせて頂き度、臨時会報誌を発行させていただきました。

私が代表の方から、新事業設立に向けましてのお話を伺いましたのは、実に数年前からのこととなりますが、その時からこの事業は大変意義深く、また、非常に画期的であると思い、「NPO法人ひまわりの会」一同と「NPO法人すくすく」の指導員の方々とともに事業開発に向けて一丸となって取り組み、24年2月に正式に事業を開設することとなりました。

今にして思えば、「NPO法人すくすく」が設立され、事業を本格的に開始した時期も2月でございました。

日々めまぐるしく様々な活動が展開されていきますが、これも双方の会をご利用いただいております皆様に支えられた結果と考えております。

この場をお借りして、御礼申し上げます。

ところで今回でございますが、「総合療育並行型ペアレントトレーニング」につきまして、代表の方へ直接インタビューをさせていただきました。

その内容につきまして掲載をさせていただきましたので、ご一読いただけましたら、大変幸いです。

NPO法人ひまわりの会 事務局

## 代表インタビュー

Q1(事務局・以下Q):総合療育並行型ペアレントトレーニングとはどのようなものなのですか？

A1(代表・以下A):総合療育並行型ペアレントトレーニングは、2歳から4歳代までの子どもとその保護者の方を対象とした、全6ヶ月間の連続事業であり、事業内容としては「ペアレントトレーニング」「個別療育」「グループ療育」の3領域から成り立っています。

そして、その3つを保護者の方と一丸になって進めていき、保護者の方に療育の大切さを実感していただき、そのうえで今後の家庭内での子どもへの「指導・支援プラン」を作成する運びとなります。

Q2:3領域それぞれの意義を教えてください。

A2:まず、「ペアレントトレーニング」で、子どもへのより効果的な介入方法を学んでいただくから、学習を促していく具体的な方法を「個別療育」にて実際に子どもを指導していきながら知ってもらいます。そのうえで、本来の療育の意味、つまり培ったスキルを様々な場面への移行の重要性を促すため、また、グループでの子どもの様子を指導者が理解し、そのうえで今後の家庭での指導・支援プランを作成するためにも「グループ療育」を行います。

つまり、子どもへの指導だけでなく、指導・支援プランを作成するという目的、意味においても、個別の場とグループの場での子どもの様子を理解することは大変大切であり、そのためにも、限定された機関の中で「個別」「グループ」の療育を行っていきます。

Q3:なぜ2歳から4歳までの子どもが対象なのですか？

A3:子どもが幼児期の比較的早い段階から療育を進めていくことで、最も療育の効果が表面化しやすく、同時に保護者の方にとっても、早期的に子どもへのより良い介入の知識を学ぶことができることで、保護者の方にとっても今後の子育てにおいてストレスを抱えにくい状況を構築できると考えたからです。

Q4:なぜ事業の期間が限定されているのですか

A4:今回の意義は、保護者の方が療育の効果を実感することに重きを置いているからです。

本来療育は、長期的に続けてこそその本来の意義を発揮していきます。

しかし、長期的に療育を続けていくためには、療育を開始した、はやい段階で保護者の方の理解をより一層促していくことが、その基盤を作るに当たって最も効果的であることを、これまでの臨床経験の中で実感していました。

そのため、本事業としては一定の期間を設けた上で、保護者の方が療育の大切さを知り、より良い介入方法などの理解を促していくことを追求しましたものが本事業です。

Q5:本事業を行うに当たった背景を教えてください。

A5:現在の日本レベルで療育を考えた場合、「早期的な子どもの指導のみ」が主体となり、「早期的な保護者に対しての理解を啓発」することがまだまだ不完全であると考えたからです。

そして、上記は数回の講義だけで成就することは不可能と考えています。

当会では1歳半から最大高校生までの子どもの指導・支援を行っており、どの年齢であっても人は常に学習していくことから、一定の成果を上げることができます。

しかし、臨床経験の中で「そんなこと知らなかった」「誰も教えてくれなかった」という言葉を、子どもの年齢が高くなるにつれて、その保護者の方から耳にすることが多々ありました。

応用行動分析(ABA)には、科学的実証に基づいた、様々な効果的な技法があります。それを、この事業を通して、保護者の方に早期的に学んでいただく機会を作り、社会的に浸透させていきたいと考えています。

また、上記を成就するためにより効果的な方法を考えた結果、この事業の形態・システムとなっていました。

Q6:代表はどのような役割をされているのですか？

A6:私は子どもの評価と個別指導計画作成を担当しています。「NPO法人ひまわりの会」の指導員と「NPO法人すくすく」の指導員の中から選抜された心強い協力者とともに実践を進めていきます。

Q7:この事業に対する意気込みを教えてください

A7:この事業は以前から絶対実現させたいと考えていた事業です。

NPO法人すくすくが設立され、心強い仲間ができたことで、本事業を開設することができましたので、非常に嬉しく思っています。

皆の協力あってこそ実現できた事業です。

指導員と一丸となって本事業を素晴らしいものとしていきたいと考えています。

Q8:最後に一言お願いします

A8:NPO法人すくすくが設立され、総合療育並行型ペアレントトレーニングの事業が開設された背景には、当会で支援をさせていただいている利用者の方あってこそこのことです。

この場をお借りして、改めて心から御礼申し上げます。

また、最後まで本会報をお読みいただきました皆様にも御礼申し上げます。

NPO法人ひまわりの会 事務局